

12月1日(木)~同22日(木)

祈りと救い

-彦根城博物館仏教美術選-

古来より人々は、神仏に祈りを捧げ、時に現世の利益を願い、時に来世の救いを求めてきました。

本展では、仏や衆生を表した絵画、彫刻、経典などを展示し、信仰が生み出した崇高なる造形の世界へと誘います。



稚児大師像

ギャラリートーク

12月3日(土) 11:00~11:30、14:00~14:30

※事前申込:不要 場所:展示室1

観覧料が必要

常設展示の名品

常設展示「ほんものとの出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に80点あまりを展示しています。

12月2日(金)~平成29年1月31日(火)

湖東焼 瑠璃釉花丸文植木鉢



鶴、亀、松、竹、梅の丸文を散らした、吉祥尽しの植木鉢。透明感のある深い色の瑠璃釉に、白色の丸文が鮮やかに映える作品です。瑠璃釉は、藍色の釉薬を表面に厚くかける技法で、江戸時代に中国から伝わりました。

12月23日(金祝)~同24日(土)は、展示替のため一部閉室します。
12月25日(日)~同31日(土)は、休館日です。

“ほんもの”との出会い

テーマ展

文化プラザだより

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)
インターネットでも購入いただけます。http://bunpla.jp/

平成29年6月11日(日)17:00 グランドホール

森山直太郎 15th アニバーサリーツアー『絶対、大丈夫』

10月にデビュー 15周年を迎えた森山直太郎。

アルバム『嗚呼』と15周年を記念してリリースされたオールタイムベスト『大傑作撰』を携え、彦根にやってきました！



指定【平成29年1月28日(土)9:00予約開始】

一般 6,900円

【12月17日(土)9:00予約開始】

友の会 6,900円

※未就学児は入場いただけません。

※託児サービスがあります。

チケット販売について

【各公演 発売初日の予約の取り扱い】

※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

12月の休館日 5日(月)、12日(月)、19日(月)、26日(月)、29日(木)~31日(土)

◎表記のチケット価格は、すべて税込価格です。

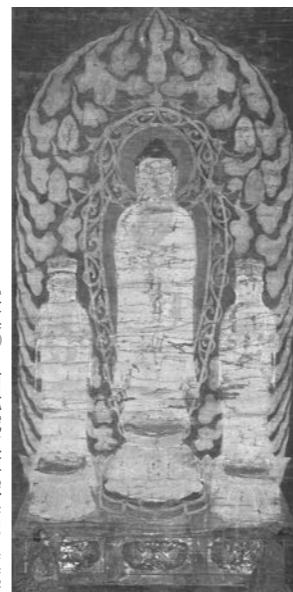
◎高齢者は65歳以上です。学生、高齢者、障害者のチケットはひこね市文化プラザチケットセンター窓口のみの販売となります。

◎託児は、子ども1人1,000円です。公演の10日前までにお申し込みください。

写真① 稚児大師像



写真② 阿弥陀三尊像(高宮寺蔵)



③。この供物を捧

寺院に詣でて仏像や仏画を拝したり、墓前などで祖先の霊を拝む時、ほとんどの人が、顔あるいは胸前で両手を合わせる姿勢をとるのではないのでしょうか。時には、花などをお供えすることもあるかと思えます。

仏教では、両手を合わせた姿勢を合掌、花を仏前に供えることを供花と呼び、いずれも種々の祈禱や儀礼の作法として規定されています。この合掌や供花をして祈りを捧げる姿は、仏教美術の作品によく見られます。

ここでは、彦根城博物館が収蔵する仏画を例に、祈りの姿を紹介しましょう。

高僧などの肖像に多く見られるの

が合掌した姿で、稚児大師像(写真①)は、その作例の一つとして挙げられます。

この画は、真言宗を開いた空海が、5~6歳の頃に夢の中で諸仏と語らったという逸話に則ったもので、画面の中央には、幼い空海(稚児大師)が合掌して蓮華に座る姿が描かれています。

この作品には、礼拝の対象となる仏尊の姿こそありませんが、空海の正面を見つめる眼差しから、眼前の仏を拝していることを見る者に想像させます。

一方、仏尊とそれを礼拝する人物が同一画面に表される場合、礼拝者は、しばしば花籠を捧げて供花する

姿で登場します。その一例が、写真②の阿弥陀三尊像です。

この阿弥陀三尊像は、善光寺式三尊といわれ、信濃国水内郡(現在の長野県長野市)に建つ善光寺の本尊と同じ形式で表されています。善光寺縁起によると、この本尊は、インド・百済を経て日本に渡った像とされ、釈迦と同時代のインドに住んでいた月蓋長者(尊者とも)が、娘の病が治ることを阿弥陀如来に祈ったところ、願いを叶えるために眼前に現れた姿を写した像と伝えます。

写真②の画は、縁起に説かれる阿弥陀三尊が現世に出現したときの場面を表しており、三尊の足下には、笏を手にして三尊を仰ぐ月蓋と、同じく仰ぎ見ながら供花する妻が描かれています(写真③)。この

げつつ、仰ぎ見るといふ行為は、畏敬の念を持つて仏尊を見つめる人間らしい動きを捉えていると言えます。

この画像を目にした人々は、月蓋夫妻の姿を通して、自身も、あかも阿弥陀三尊を仰ぎ見るような感覚を抱いていたのかも知れません。



写真③ 阿弥陀三尊像(部分)

(彦根城博物館学芸員 古幡昇子)

写真の作品は、テーマ展「祈りと救い」彦根城博物館仏教美術選」で12月22日(木)まで展示します。(期間中無休)

ときの玉手箱

博物館からのメッセージ

描かれた祈りの姿(みほとけを拝す)



第244回